

English Garden 第36話

"Ten Million different stars am I, But only one spirit, connecting all."
Nancy Wood

「私は何千万のさまざまな星、でも、ぜんぶをつなぐ霊はひとつ」
ナンシー・ウッド

「今日は死ぬのにもってこいの日」("Many Winters") で以前にもこの欄に登場したナンシー・ウッドが、また先住アメリカ人(アメリカ・インディアン)の心を詩で綴った美しい絵本 "Spirit Walker" を出版しました。冒頭の言葉はその詩集の最初の詩 "Ten Million Stars" からです。まず全体をご紹介します。

Inside each raindrop swims the sun,
Inside each flower breathes the moon.
Inside me dwell ten million stars,
One for each of my ancestors:
The elk, the raven, the mouse, the man,
The flower, the coyote, the lion, the fish.
Ten million different stars am I,
But only one spirit, connecting all.
ひと粒ひと粒の雨のしずくの中で太陽は泳ぎ、
一つひとつの花の中で月は呼吸する。
私の中には祖先の一人ひとりの星
何千万の星が住んでいる。
シカとワタリガラスとネズミと人の星、
花やコヨーテやライオンやさかなの星。
私は何千万のさまざまな星、
でも、ぜんぶをつなぐ霊はひとつ。

ナンシー・ウッドは、ニュー・メキシコ州のタオス・プエブロ族の生き方に共感して 彼らの居留地に近いサンタフェの郊外に住み、その思いを代弁して詩に歌っています。

先住アメリカ人たちは、造物主によってこの地に生命を与えられたことを信じ、大地の一部として生きてきました。彼らにとっては「太陽は父、大地は母、動物や樹木は兄弟姉妹」なのです。

タオスの人びとの主張によると、「タオスの村はマッシュルームのように大地から生えてきたのであり、それ故に祖先や動物の聖なる霊に満たされている」のだそうです。

この11月始め、私たち夫婦は一週間ほどアメリカの西部を旅してきました。先住アメリカ人の居留地の多いアリゾナの砂漠を中心に、西部の大自然を見ることが目的でした。フェニックスからナバホ族の居留地内にある化石の森や モニュメント・ヴァレーなどを廻り、居留地の様子などを垣間見ることができました。ここは居留地としては最も広く、車で何時間走っても抜け出さないほど(九州と四国を合わせたより広い)なのですが、僅かな木や草しかない荒涼とした砂漠に小さな家や放牧の牛や馬が点在し、所どころに小さな集落があるだけというのが大ざっぱな印象でした。

終着地のラスベガスから帰国する際には、中継地のサンフランシスコが霧のため、急遽シアトル乗り継ぎになりました。そのシアトル空港の店で出会ったのがこの本です。シアトルはおよそ150年前、白人の環境破壊に警告を發しながらも土地の割譲に友好的に応じた スクアミッシュ族の首長の名をとって命名されたゆかりの地でもあります。私は不思議な偶然を感謝しながら帰りの飛行機の中でこの詩集を読み、深い感銘を受けたのでした。



(次回に続く)